

第 4 回 津山市教育振興基本計画検討委員会 会議録

○日 時 平成 23 年 10 月 14 日（金）14：00～16：15

○場 所 津山市役所東庁舎 E 302 会議室

○出席者

・津山市教育振興基本計画検討委員 8 名

委員長 松岡信義（美作大学短期大学部教授）

副委員長 林宏和（津山市 P T A 連合会会長）

委 員 小坂田昌平（津山市体育協会会長）、可児通宏（くらしき作陽大学非常勤講師及び津山市文化財保護委員）、國藤義隆（自営業役員）、福田邦夫（津山朝日新聞社代表取締役社長）、檜本真弓（一般公募）、八木芙佐子（津山市文化連盟会長）

欠 席 遠藤知子（ジェンダーフリー美作代表）、岡田正（津山工業高等専門学校教授（副校長））

・検討委員会オブザーバー 3 名

真木源（中道中学校長）、定本啓子（弥生小学校長）、内田慶子（こども保健部こども課参事）

・事務局 教育長、教育委員会関係部課長、企画調整官、関係各課長等 16 名

1．開会

2．委員長あいさつ

3．議事

第 2 章

（委員長から）

- ・2 章については、3 章の具体的な取組が一目で分かるような構成とし、なおかつそれを読み取るなかで 2 章の理念が浮かび出てくるような書き方があると思うので、次回の検討委員会で形を整え直して再度検討する。

第 3 章

（事務局説明）

- ・今後 5 年間に取り組む施策について項目分けし、担当各課から説明。各項目は「施策の方向性」「主な取組」「重点取組」に分けて記載した。

（委員から）

- ・「重点取組」については、各項目に記す方が見やすい。

- ・この計画を読んでいる人が、1章の課題分析を念頭に読むことが出来るように導く文章があれば良いと思うので、「施策の方向性」の記載については、何のためにどうするのか分かるよう、課題を共有することができるような書き方が必要だと思う。
- ・表記する施策体系について、視覚的にイメージしやすいように図解など工夫が必要。
- ・施策を検討する視点が変える、その1つのキーワードが「津山らしさ」になってくると思う。今まで施策を実行する中ではあまり意識されなかった「津山らしさ」を意識することで1歩違う視点となるのではないか。
- ・施策を取り組むそれぞれが向き合っていないところあり、それが課題である。同じ見通しを持ち、それを地域に示しながら力をもらって実施していくことが必要である。
- ・2章の基本理念と3章の施策とのつながりについて発見できなかった。
- ・5年という限られた期間で、なおかつ新しい視点を盛り込み、変わったなとアピールするためには、書き方に工夫も必要であり、各課で記載した施策を組み替えて記載することも必要であると思う。
- ・今後は何が変わって何が新しくできるということが書かれていなければならないと思う。また、読む人みんなに分かるものにせねばならない。
- ・ここに書かれていないから実施していない訳ではないので、全体の量を絞って象徴的な施策を出し、それが全体の施策の象徴となるように、ここに表れてないけれどもこのような発想で実施していると類推できるような書き方が大事であろうと思う。
- ・ある程度のフォーマットを決めて、内容などの書き方を統一したほうが読みやすい。
- ・連携、交流、支えあうという表現が幾つもでてくるが、もう少し具体的に、学校と地域、先生同士などの関係づくり、世代間の技能の継承の不足など、何をするのか表現すればイメージがしやすくなる。

その他

- ・第5回検討会の開催について 平成23年11月18日(金)14時開会

4. その他

なし

5. 閉会